

2025 年度（対象年度：2024） 自己点検・評価シート

組 織 名	教職センター
責 任 者	落合 雄彦

基準 6	教員・教員組織
------	---------

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
	記入なし

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項
昨年度に引き続き、授業評価アンケート結果を個々のFD活動に活用することが期待される。【留意点】

<【参考】2020 年度 認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目 <大学基準協会の「評価項目」に相当>	点検項目 <大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 (現状)
606	教職課程を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	①教職課程認定基準(平成13年7月19日教員養成部会決定)で定められた必要専任教員数を充足しているか。	A
		②担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況に基づく授業担当であるか。	A
607	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	①教科専門の授業科目を担当する教員も含め、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFDが確実に実施されているか。	A
		②FD活動を、教員の教育活動に係る資質向上(教育能力の向上、授業方法の改善、教育課程の開発・改善等)、また、研究活動及び社会連携・社会貢献活動に係る資質向上に適切に繋げている	A

	か。	
	③個々の授業科目の見直しに繋がるFDの機会でも活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか。	B
	④教員活動自己点検を、教員の資質向上・改善に適切に繋げているか。	B

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
<p>606① 本学教職課程を担当する教職課程担当教員（専任・特別任用教員）は8名であり、教職課程認定基準で定められる必要な教職専任教員数を入学定員に基づいて配置しており、認定基準を満たしている [606 ア] [606 イ]。</p> <p>他方で、「教科に関する専門的事項」（教科に関する科目）においては、設置している免許状教科によって必要な教職専任教員数が定められているが、教科ごとの認定基準は満たしている [606 ウ]。</p> <p>教職課程に係る科目を担当する教員の採用や退職、昇任等で変更が生じる場合は、文部科学省の定めるとおり教職課程の変更届を提出し、認定基準を下回らないよう注視している。</p>
<p>606② 科目担当者には、提出された教育研究業績書にて、研究実績を確認するとともに、学校現場等での実務経験について確認を行っている。併せて、科目担当については、教職センター会議において、科目内容に応じた適切な業績を有した担当者であるか確認している [606 エ] [606 オ]。</p>
<p>607①②教職課程におけるFD活動の一環として、教育全般・授業・教材等の研究開発等を奨励することを目的に、教職課程科目（教職に関する科目）担当者を対象とした教職FDプロジェクトを募集している [607 ア]。2024年度は、「中学校社会科地理的分野、地理総合、地理探究の接続に関する実地調査」、また「個別最適な学びと共同的な学びの実現—お茶の水女子大学附属小学校の取組—」が採用され、実施された [607 イ]。教職FDプロジェクトで取り組んだ内容および成果については、年度末に発行する「龍谷教職ジャーナル」にて報告している [607 ウ]。</p> <p>教職センターが発行する「龍谷教職ジャーナル」では、本学教職課程に関わる教員の研究論文や、実際に教壇で活躍する本学卒業生（龍谷大学 校友会 学校園教員支部 教龍会）の教育現場での取り組み、在学生による教員採用試験合格体験記等を掲載し、研究活動及び社会活動に係る資質向上につなげている [607 ウ]。</p>
<p>607③ 全学で実施する授業評価アンケートにおいて、個々のFD活動にも活用できるよう、2022年度より独自の質問項目を設置している [607 エ]。引き続き、授業評価アンケート結果を個々のFD活動に活用できるよう、アンケート設問項目の見直しを含め、蓄積されたデータの分析・活用方法の検討を進める予定である。</p>
<p>607④ 本学では、大学の教育研究等を支える教員個人の諸活動に対する自己点検を教員活動自己点検として行っており、教員一人ひとりの資質向上・改善につなげている。2024年度においては、教員活動自己点検の組織的活用方策として、「本学教職センターが目指す教員の育成に資する点検結果の活用」を掲げた。</p> <p>具体的には、本学教職センターが目指す「専門性・社会性・実践的指導力に富む良心的で優秀な教員」の育成にとりわけ有効であり組織的に情報共有することが望ましいと委員長・副委員長が判断した取り組みについて、第3回教職センター自己点検・評価委員会において Good Practice の共有を行った [607 オ] [607 カ]。</p>

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.	
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
607③	全学で実施する授業評価アンケートにおいて、個々のFD活動にも活用できるよう設置している独自の質問項目をもとに、今後、授業評価アンケート結果を個々のFD活用に活用できるよう、アンケート設問項目の見直しを含め、蓄積されたデータの分析・活用方法の検討を進める予定である。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
606	ア	教職課程認定基準（文部科学省・教職課程認定申請の手引きより抜粋）
606	イ	教職センターウェブサイト「教員紹介」 https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku/about/teacher.html
606	ウ	「教科に関する専門的事項」（教科に関する科目）各学部 2023 年度専任教員数一覧表
606	エ	履歴書・教育業績・職務実績書<龍谷大学様式>
606	オ	2024 年度第 7 回教職センター会議資料 2025 年度 教職課程科目 非常勤講師新規出講者一覧
607	ア	2024 年度「教職 FD プロジェクト」募集要項、申請書様式
607	イ	2024 年度「教職 FD プロジェクト」申請書
607	ウ	教職センターウェブサイト「教職課程の質向上に係る取り組み」 https://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyoshoku/efforts.html
607	エ	2024 年度「学生による学期末の授業アンケート」の実施に係る回答事項について（提案）
607	オ	学習指導案_墨消し済み
607	カ	逆向き設計シート学生サンプル_墨消し済み

II. 評価結果

総評	
606	<p>本学教職課程を担当する専任教員（特別任用教員含む）は8名であり、教職課程認定基準で定める（入学定員に基づく）必要な教職専任教員数を上回る数を配置している。また「教科に関する専門的事項」（教科に関する科目）についても、各免許教科の必要な教職専任教員数を充足している。また教職センターは、教職課程の各授業科目に応じた適切な科目担当者を配置するため、各担当者から提出された教育研究業績書にて、教育研究実績や学校現場等での実務経験を確認している。</p> <p>以上より、教職課程を展開するための教員組織を適切に編制していると評価できる。</p>

607 教職課程におけるFD活動の一環として「教職FDプロジェクト」を実施している。教職FDプロジェクトは、カリキュラム研究・開発や共通教材作成等に関する取り組みを支援している。その成果は「龍谷教職ジャーナル」に掲載している。「龍谷教職ジャーナル」は、教職FDプロジェクトの他、教職課程担当者の研究論文や、教職に就く本学卒業生（小学校、中学校、高等学校の教員等）の教育現場での取り組み等も掲載し共有している。本取り組みは、教員の資質向上、授業方法の改善、教育課程の開発・改善、研究活動及び社会活動に係る資質向上に繋がるものと評価できる。

2022年度より授業評価アンケートに独自質問を追加し実施している。引き続き、授業評価アンケート結果を個々のFD活動に活用できるよう、アンケート設問項目の見直しを含め、蓄積されたデータの分析・活用方法の検討を進める予定であることに期待したい。

教職センターは、教員活動自己点検（教員個人の諸活動に対する自己点検）の結果を組織的に活用し、教員の資質向上・改善に繋げている。

本学教職センターが目指す「専門性・社会性・実践的指導力に富む良心的で優秀な教員」の育成にとりわけ有効であり組織的に情報共有することが望ましいと委員長・副委員長が判断した取り組みについて、組織として共有および改善を行うこととしていたが、2024年度においては、第3回教職センター自己点検・評価委員会においてGood Practiceの共有を行っている。

以上より、FD活動は、教育、研究、社会活動等と多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上に繋がるものと評価できる。

長所・特色

課題事項 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

・昨年度に引き続き、授業評価アンケート結果を個々のFD活動に活用することが期待される。【留意点】